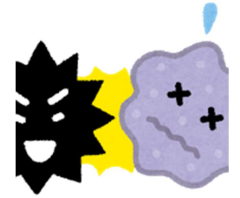


●風疹が流行しています

2018年は首都圏を中心に全国的に風疹が大流行しています。患者数は、過去10年間で最大の流行となった2013年に次いで2番目に多いと国立感染症研究所が12月18日発表しました。これは昨年1年間の患者数の28倍にあたります。



風疹とは、風疹ウイルスを原因とし、発熱や発疹、リンパ節の腫れを主症状とする感染症です。別名「三日はしか」の名前でも知られていますが、この俗称は、風疹がはしか(麻疹)に類似する症状をみせ、麻疹より短い期間で治癒することを意味しています。合併症の伴わない風疹は、麻疹よりも軽い症状で経過します。しかし、妊婦さんが風疹ウイルスに感染すると、赤ちゃんに「先天性風疹症候群」という重篤な合併症が生じることが知られています。先天性風疹症候群の予防のため、妊娠可能年齢の女性だけではなく成人男性の風疹ワクチン接種の促進を目指し、公的機関による啓発活動が行われています。

●風疹の原因

風疹は、風疹ウイルスに感染することで発症します。風疹ウイルスに感染した患者さんの咳や鼻水などを介する飛沫感染により、他者への感染が成立します。気道から侵入した風疹ウイルスは、鼻や喉などのリンパ節で増殖し、血液を介して全身へ広がって、発熱や発疹などの症状を引き起こすようになります。



名前が似ている「麻疹ウイルス」は非常に感染力が強く、1人感染者がいると、およそ15人前後の免疫を獲得していない人に感染するといわれています。一方、風疹ウイルスは5人前後に感染を広げるといわれています。しかし、インフルエンザウイルスと比べると感染力は強いこともわかっています。風疹の流行を抑えるためには、予防接種により集団における免疫を持った人の割合を増やすことが重要と考えられています。

●風疹の症状

風疹ウイルスが体内に侵入してから、症状が出るまでの潜伏期間は2～3週間です。



発熱



発疹



リンパ節腫脹

初期症状として倦怠感や微熱、首のリンパ節の腫れなどが現れます。特に耳の後ろや後頭部が腫れることが特徴的です。リンパ節の腫れが引くには数週間程度かかります。初期症状が現れて3～7日前後が経過すると発疹がみられます。発疹は顔から全身へと広がります。別名「三日はしか」と呼ばれることから示唆されるように、発疹は数日ほどでおさまり、跡を残すこともほとんどないといわれます。発疹が現れる数日前から出現後1週間が、感染力の強い期間です。

●妊娠初期の感染は胎児に先天性風疹症候群を引き起こします

風疹に対する免疫が不十分な妊娠20週頃までの女性が風疹ウイルスに感染すると、眼や心臓、耳等に障害をもつ(先天性風疹症候群)子どもが出生することがあります。(妊娠1ヶ月でかかった場合50%以上、妊娠2ヶ月の場合は35%などとされています)。妊娠中の女性は予防接種が受けられないため、特に流行地域においては、抗体を持



たない又は抗体価の低い妊婦は、風疹が発生している地域では、可能な限り不要不急の外出を避けていただき、やむを得ず外出をする際には可能な限り人混みを避けていただくなど、風疹にかからないように注意してください。また、妊婦の周りにいる人(妊婦の夫、子ども、その他の同居家族等)は、風疹に感染しないように予防に努めて下さい。

●ワクチン接種で、風疹を予防できる！



風疹は、風疹含有ワクチンを接種することで予防できます。風疹の予防接種は、主に内科や小児科などで受けられます。風疹ワクチンは、1回の接種だけでは、20人に1人は抗体ができないと考えられているため、2回の接種が勧められます。2回接種する場合は、1回目から最低でも1か月以上の間隔をあけてください。風疹の予防接種には、麻しん風疹混合ワクチン(MRワクチン)の使用が推奨されています。

妊娠中は、風疹の予防接種を受けることができません。女性は、子どもごろの接種を含めて妊娠する前に合計2回の接種を受け、接種後、2か月間は避妊するようにしましょう。

●風疹ワクチンの接種制度は、年代によって異なる

男性では、風疹の予防接種を受けていない人が多くみられます。これは風疹を含むワクチンの定期予防接種制度の移り変わりが関係しています。生年月日によって、定期接種で風疹の予防接種を受ける機会があったかどうか異なるのです。具体的な生年月日による違いは、次のようになっています。

- ・1962年4月1日以前生まれ...接種なし
- ・1962年4月2日～1979年4月1日生まれ...男性は接種なし、女性は中学生のときに集団接種(1回)
- ・1979年4月2日～1987年10月1日生まれ...男女共に中学生のときに個別接種(1回)
- ・1987年10月2日～1990年4月1日生まれ...男女共に幼児期に個別接種(1回)
- ・1990年4月2日以降生まれ...男女共に個別接種(2回)(時期は生年月日によって異なる)

風疹ウイルスに対する抗体があるかどうかわからない場合は、医療機関で血液を採って行う抗体検査によって、抗体があるかどうかを調べることができます。抗体の有無を調べることが目的で行う検査は健康保険が適用されません。自治体によっては、抗体検査の費用の助成を行っているところもあるので、確認してみるとよいでしょう。



当施設オプション検査

ウイルス抗体検査セット	麻疹・風疹・水痘・ムンプスの4項目のセット検査	¥15,000[税別]
-------------	-------------------------	-------------

バックナンバーはホームページよりダウンロードできます。

定期配信を希望される方や内容についてのご質問がございましたらお気軽にお問い合わせください。